
輪廻転生

赤嶺 蒼雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

輪廻転生

【Nコード】

N9399G

【作者名】

赤嶺 蒼雲

【あらすじ】

ごくごく普通な中学三年生。そんなオレたちは、陰世に取り込まれた。陰世は現世と繋がる裏世界。そんな陰世が破壊の危機に！！『選ばれし者達よ・・・現世のために闘え』愛しい人のために、4人の少年少女は、武器を持つ。「貴方の為なら頑張れるよ・・・」例え消えてしまっても、君を探して輪廻転生。

何にも染まらず、光を求める漆黒と優しく照らし、癒やしを与える煌めき

もし．．．私が居なくなったら

貴方の目の前から消えてしまったら

二度と逢えないとしたら

貴方はそれでも私を愛してくれますか？

私は種田魅憂^{タネダミユウ}、どこにでも居る中学三年生。変わっているところなど特になが強いと言うなら少し家系が変わっている。うちは、家が神社で代々長女がかなり靈感がある。そして私は長女だ。たまに見えるが、特に支障はない。

そして私の隣を歩いている、長身で細身で黒髪で色白な少年が私の彼氏である、桢守大空^{ノモリタイクウ}だ。付き合ってから早二年が過ぎようとしている。毎日一緒に下校していて、今もその最中なわけだ。

「．．．大空？」

いきなり彼が抱きしめてきた。ツンデレ君な彼にしては珍しい。

「なんか．．．胸騒ぎがするんだ．．．お前が俺から離れていく感じ。」

そう言うって強く抱きしめてくる彼をみて、愛しさがこみ上げてくる。

「大丈夫だよ？大空が私の一番だから．．．。」

笑顔でそう言うと、彼は真っ赤になった。

こんな当たり前の日常が私の手からスリ落ちていく。

そうなるなんて、私は思っても見なかった。

だけど私たちは、

愛を辿って輪廻転生。

全てを呑み込み守り抜く大河と強さと美しさを惑わす赤き炎

素直になれない。

優しくできない。

でも君との時間は掛け替えのない楽しい時間。

「石田！今日こそ覚悟しろっ……ワシが切り刻んでやるらあ。」

「ぬうわんだと鬼城！！その言葉そっくりそのままかえしてやるぜ！」

「「覚悟っ！！」」

ワシは石田愁^{イシダシユウ}。只今剣道部で活動中。あの男みたいなしゃべり方のカスヤロウが鬼城櫻火。

ワシと鬼城は通称犬猿の仲だ。

幼なじみで、元恋人……といっても幼稚園のとき。

今から遙か十年前の話だ。

別れた理由は……

「オレより剣道ができる奴はいらねえ」

となんとも幼稚園児らしくない理由。

そのうえ自己中心的考え炸裂な理由。

そして鬼城はワシより強くなって帰ってきた。

で、毎日剣道部で共に汗を流し、戦いを続けているという素晴らしい青春なのだ!!!

ハッハッハ!!! . . . どころがだああ!!!

ちなみにワシは未だに鬼城が好きで、竹刀で叩かれることに喜びを感じている . . . ナンデモナイデス。

「弱くなったもんだな . . . 石田あ!!!」

鬼城が荒々しく竹刀をふる。

そして圧倒的戦力でワシをぶちのめした。

「女らしくないよなお前 . . . 」。
帰り道にワシが言った。

「剣道に女らしさはいらんだろお? お前こそ男の威厳もありゃしねえぞ?」

鬼城はクスリと笑った。

毎日戦って、笑って . . .

そんな日々が楽しかった。

シリアスな世界なんて望んでいない。

求め合って輪廻転生。

プロローグ

例えば・・・私達の住んでるこの世界が終わりを告げようとしている。

みんな死んじやうのって言ったら・・・貴方は信じてくれますか？

μ：プロローグ

今日は雨だ。私の嫌いな天気。雨の日はなんだかマイナス思考になっってしまう。

授業も終わり私と大空、そして愁君に櫻火ちゃん。みんなで教室にいた。

「なあなあ！！氷見中の都市伝説知ってる？」

「とっ都市伝説！？」

私は怖い話が苦手だ。とっさに大空の服の袖を掴んでしまった。

「おお！？お熱い二人やんなー 我と石田はじゃまじゃろ？」

そう言うと櫻火ちゃんは愁君を引っ張った。

「ほれっ二人の邪魔せんでその幻の鏡を探すじゃー」

「なんで俺と鬼城が一緒に行くんだよ！大空うゝみゆちゃん！！」

愁君は櫻火ちゃんに掴まれ、そして引きずられ・・・行ってしまった。

困って大空を見たら、眠そうにしていた。

しばらくして私が見ているのに気がついたのか

「俺たちも行くか？」

と聞いてきた。

「うっうん・・・でも都市・・・伝説・・・」

私を下を向いて言うと優しく頭を撫でながら

「俺が・・・そっ傍にいれば平気だろ？」

と言ってくれた。

耳まで真っ赤にして言う貴方に愛おしさを感じた。

そして私と大空は二人を追うのであった。

後悔なんてしてないよ？

貴方を・・・貴方達を守れたこと、誇りに思ってる。
だから・・・

私のことなんて・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9399g/>

輪廻転生

2010年10月9日03時17分発行